

2022 年度 (令和 4 年度) 学校評価自己評価表

| | | | | | |
|-------|------|-------|-----------------|-----|----|
| 済美 | 中学校区 | 校番 18 | 福山市立 | 瀬戸小 | 学校 |
| 最終更新日 | | | 2022年(令和4年)4月8日 | | |

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

| | | | | |
|--|---|---------------------------|--|-------------|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 | 児童生徒の現状 | 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | ○課題発見・解決力 ○他者とかがわり合う力・心 | ○コミュニケーション力 |
| ○コロナ禍において、評価委員、地域や保護者が児童生徒の健やかな成長に向けてその役割を果たせるよう、課題や取組、変化等について、学校から発信して情報を共有していくことが望まれる。 | ○基礎的・基本的な学力はおおむね定着しているが、それらを活用した思考力や表現力、またねばり強く問題に取り組む姿勢には課題がある。 ○校区一体となった取組を通して、児童生徒の集団への意識が高まっている。また集団を牽引するリーダーも育ってきている。 | めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) | ① 目標や課題解決に向かって粘り強く努力し、チャレンジしている。 ② 場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③ 多様な他者とかがわり合いながら、共によりよく生きようとしている。 | |
| | | 中学校区として統一した取組等 | ○社会に開かれた教育課程「校区カリキュラムマップ」の実現 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会、生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成 | |

III 自校

| | | | | |
|--|---------------------------|--|---|---|
| ミッション | 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | ○課題発見・解決力 | ○コミュニケーション力 | ○他者とかがわり合う力・心 |
| 「子ども理解・尊重」を基盤に、学び・学級・学年づくりを進め、子どもたちの姿を通して、保護者・地域とつながる瀬戸小学校 ～「安心感・自己効力感・思いやりの心」を育みながら～ | めざす子ども像 | 1・2年 | 自分の周りの人たちのことを、目線を合わせ、うなずき・つぶやき(「へえ～・ほお～・なるほど・すこいね!」等)ながら、聴いている。 | 自分の周りの人たちの思いや、そう思う理由に気づき、自分の思いを、素直なことば「はい・ありがとう・ごめんなさい」等で表したり、誰かの役に立とうとしたりしている。 |
| 学校教育目標 | | 3・4年 | 自分の考えを、相手に分かりやすく(主・述の明示、結論⇒根拠、例え話の挿入、図表や絵・写真・初体験の活用、声のボリューム、間の取り方等)伝えている。 | 相手の立場(状況)やその時の思いを、自分に置き換えて想像し、共通・相違点を見出しながら、(折り合いをつけて)歩み寄り「そうか・そうなんだ」等、励ましたり「大丈夫? いっしょにやろう」等しようとしている。 |
| 自ら考え、学び合い、ともによりよく生きる子どもの育成 | | 5・6年 | 相手の考えを、自分の考えと比べたり関連付けたりしながら聴き、問い返したり、整理し直してより明確に伝えている。 | 多様な他者とのかがわりを通して、(時には、衝突しながら)それぞれの良さやちがいを見出し、受け入れながら、助け合ったり、(競い合い)高め合ったりしようとしている。 |
| 現状 | | 1年 | 自分の考えを、多様な他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得を繰り返し、考えを広げ・深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりしている。 | 集団(地域、学校・学年・学級等)活動における自らの役割とその目的・価値を見出し、多様な他者と認め合い・許し合い・補い合いながら、責任を果たそうとしたり、貢献しようとしていたりしている。 |
| 〈児童生徒〉 ①素直な心で、日々の授業や掃除、体育・音楽参観日、修学旅行、野外活動等に取り組む、達成感等を味わいながら、自ら考え・判断し・協働する力を身に付けつつある。集団活動(学級・学年、異年齢、交流学級)等を通して、安心感・自己効力感・思いやりの心を育み、「自らあいさつをする」等の行動化につなげることに課題がある。 ②担任・関係職員の支援・協働により、連続欠席が改善傾向の児童が見受けられるが、学校・教室で、自ら学んだり、学び合ったりすることが不十分な児童が少なからずいる。 ③学びの面白さを味わいながら、学力(生きて働く知識・技能、思考・判断・表現力、学びに向かう力・人間性等)を伸ばしていくことに課題がある。 | 中学校 | 2年 | 自分の考えを、多様な他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得を繰り返し、考えを広げ・深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりしている。 | |
| 〈授業〉 ○理解度に合わせた授業展開や個別の学習支援等を行うことで、子どもたちは、「授業は、自分に合った考え方・教材・学習時間になっている」と、概ね好意的に捉えている。 ▽「課題意識や問いを持ち、自ら取り組んでいく」「話し合う活動等を通して、自分の考えを深めたり、広げたりする」「自分の考えがうまく伝わるように、工夫して発表する」等、主体性や学びの広がり・深まり等を引き出す授業展開に課題がある。 ▽学びの本質や系統性、生活とのつながり等を踏まえた「単元づくり」に課題がある。 | 3年 | 学びの過程や結果から気付いたこと、考えたこと、その意味・価値・つながりを振り返り、見出した次の目標や課題を、見通しを立てて情報を収集・整理・活用しながら(他者を巻き込んで)達成・解決している。 | | |
| | 研究 | テーマ | 「自ら問いや考えを持ち、伝え合い・聴き合いながら、粘り強く学び続ける授業づくり」 | |
| | | 内容等 | ①各授業者が、「挑戦・追求教科(国・算)・単元」等を自ら選び、目の前の子どもたちとともに、「学びが面白い!」にチャレンジする。 ②校内・チーム体制を整え、研究・研修+日々の工夫・改善を進める。 | |
| | めざす授業の姿 | | 「自ら問い(なぜ・どうして?)を持ち、(既習・経験・他教科等とつなげて)考えている」「考えたことなどを、伝え合い・聴き(訊き)合いながら、広げたり・深めたりしている」「(見通しを立てたり、振り返ったりしながら)粘り強く学んでいる」 →『分かった・できた・面白い!』 | |